

東日本大震災後、被災した石炭火力発電所 2 ヶ所を訪問する機会があった。はじめは昨年 11 月に IGCC 実証機のあるクリーンコールパワー研究所（福島県いわき市）、2 度目は今年 3 月に相馬共同火力新地発電所（福島県相馬郡）を訪ねた。

福島第一原子力発電所事故の陰に隠れ、東京ではあまり報じられていなかったと思うが、2 つの発電所ともに、地震による津波で大きな被害を受けている。震災当日の様子を発電所の方が撮影していて、映像で見せていただいた。発電所の設備が波にのみこまれ、構内の車が流されていく様子などが生々しく映っており、改めて津波の恐ろしさを実感した。

また、地震の影響により、沿岸部では地盤沈下が起き、さらに新地発電所では震災当日に荷役中だった石炭運搬船が座礁するなどの被害もあったそうだ。

このように大きな被害を受けながらも、クリーンコールパワー研究所では昨年 7 月から、新地発電所は昨年の 12 月から発電を再開している。

発電所の復旧にあたっては、相当の労力と時間を必要としたはずだが、「逼迫する電力供給への貢献はもちろんであるが、地域の方々に発電所が動いているところを見てもらい、地元復興のシンボルとして、少しでも元気を与えられる存在となっていきたい」という言葉が強く印象に残った。

発電所の近くには、瓦礫が山のように積まれており、復興にはまだまだ時間がかかりそうである。東北復興のためにできることといえば、募金やボランティアが真っ先に頭に浮かぶが、観光を兼ねて東北地方を訪れてみることや、東北ゆかりの商品を購入すること等でも、地域経済の活性化に役立つと思う。

余談だが、私は福島県会津若松市の出身である。自然豊かで美しい「福島」であるが、原子力発電所の事故後、時折「フクシマ」と表記されている。特別な意味を持たせるためのカタカナ表記であり、原子力発電所の事故問題を指す言葉だと思うが、負の印象を与え、県のイメージダウンにつながっていると感じる。「福島」で復興を目指して頑張っている方々は、この「フクシマ」という表現をどのように思うのだろうか。

実家の近くには地震の被害にあわれた方が今も避難しているという。早く震災前の生活が取り戻せるよう、心から願うとともに、生まれ育った東北に少しでも恩返しできることはないか、自分なりに考えて行動していきたい。